

実習指導室の役割に関する考察

—— 実習指導室・幼稚園実習担当活動報告を通して ——

児童学部児童学科 阿部直美

抄録：保育者を養成する大学において、実習にむけての指導は多岐にわたっており、教育実習事前事後指導の規定の時間内では、なかなか十分な指導ができないのが現状である。本学では、平成17年度より「実習指導室」を設置し、実習に関する学生からの様々な疑問に助言・指導を行っている。同時に同年度より、実習期間中にも学生の相談に答えることができるよう、実習相談メールを開設し、対応している。本研究では、設置以来4年間の実習指導室における幼稚園実習担当の相談件数・相談内容・相談内容詳細・年度別比較を分析し、現状を把握するとともに、実習指導室の役割や今後の課題について検証する。

キーワード：実習指導室 幼稚園教育実習 教育実習事前事後指導 実習相談 個別指導

はじめに

保育者を養成する大学において幼稚園教育実習にむけての指導は、多岐にわたっている。まず、実習にむけての事務的な指導（健康診断・予防接種の確認・自己紹介書の添削）、基本的な生活態度の指導（挨拶・服装・言葉使い・マナーの確認）、メンタル面の指導（心がまえ・心配事の解消）等から、実技面での専門的な指導（実習への取り組み・観察日記の書き方・保育教材の提示・責任実習の選択の仕方・指導案の立て方・指導方法の提示・実習の振り返り）までとなっており、教育実習事前事後指導の規定の時間内では、なかなか十分な指導ができないのが現状である。

小川らは、「核家族化・少子化が進む中で友達と遊んだという経験やこどものみならずそもそも人とかかわるという経験自体が希薄化していると言われる中で、果たして学生は実習の場面においていきなり子どもとかかわり、子どもと共に遊ぶことが可能なのであろうか」⁽¹⁾と指摘する。

このように昨今学生は、普段から子どもに接す

る機会が少ないため、子どもの遊びを予想することが困難で、観察のポイントを定めたり、ねらいを見極めたりすることが難しい。同時に生活経験も乏しく、社会的なルールやマナーが習慣づいていない現状である。このことから、大人数で一方向的に指導するばかりではない、個別できめ細かい丁寧な指導が必要となってくる。

本学では、平成17年度より「実習指導室」を設け、保育所実習担当教員、施設実習担当教員、幼稚園実習担当教員がそれぞれ交代で常時これを担当し、学生からの実習についての様々な相談を受け、助言・指導を行っている。

また同年度より、実習期間中にも学生の相談に答えることができるよう実習相談メールを開設し、各実習担当教員が学生のメールに返信して対応している。

本研究では、幼稚園実習担当教員（筆者）の相談担当時間の実習指導室日誌を集計し、平成17・18・19・20年度の実習指導室における幼稚園実習担当の活動報告を行なう。また内容の分析を通して、学生の疑問点やニーズを再確認し、現状を把

握するとともに、実習指導室の役割や今後の学生指導のあり方について検証することを目的とする。

1. 実習指導室について

- ・実習指導室は、児童学科研究事務室内に設置されており、学生が気軽に立ち寄りやすい環境を整備している。
- ・開室時間は、午前10時から午後5時
午前は、10時から13時30分
午後は、13時30分から17時
- ・教員の担当は、午前・午後交代制で、保育所実習担当教員・施設実習担当教員・幼稚園実習担当教員の各1名が担当し、1名あたり週にほぼ3～4回担当している。
- ・担当教員は、学生の相談内容・教員の指導内容・相談人数・他教員への連絡事項など実習指導室

日誌を毎日記入し、学生の現状の把握に努めている。

- ・学生向けに実習指導室連絡ノートを常置し、開室時間外の相談についても教員と連絡が取れるよう配慮している。
- ・大学休暇中については、学生は実習活動、指導室担当教員は実習訪問指導活動のため、閉室している。

そのため、実習中の相談・質問に対しては、実習相談メールにて学生の質問に対応している。

- ・実習相談メールは、携帯メールからも送信可能で、各実習に対してメールアドレスが設定され、各実習担当教員が返信を行なう。

2. 実習指導室 幼稚園実習 活動報告 (H17・18・19・20年度) および考察

(1) 学生相談件数

表1 平成17年度

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
実習指導室担当回数	10	11	13	11	1	12	13	10	8	13	102
学生相談件数	41	85	113	51	4	91	64	46	23	7	525

表2 平成18年度

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
実習指導室担当回数	10	11	10	10	3	10	8	9	7	2	80
学生相談件数	43	125	73	34	5	89	41	34	28	0	472

表3 平成19年度

	4月	5月	6月	7月	8月	10月	11月	12月	1月	2月	計
実習指導室担当回数	8	11	11	12	4	13	12	10	9	4	94
学生相談件数	19	46	66	143	65	121	99	47	38	10	654

表4 平成20年度

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
実習指導室担当回数	8	13	12	15	1	11	10	10	10	1	91
学生相談件数	9	68	61	170	11	173	119	39	22	0	672

- ・実習指導室担当回数は、午前あるいは午後の担当をそれぞれ1回とする

学生の合計相談件数をみると、平成17年度525件（表1）、平成18年度472件（表2）、平成19年度654件（表3）、平成20年度672件（表4）と、実習指導室開室当初より、多くの学生が利用している状況がわかる。また、年々相談件数が増加しており、学生のニーズがより高まっていることがうかがえる。

幼稚園実習指導においては、一度は実習指導室に足を運ぶ機会を作ることが大切であると考え、4回生進級当初に教育実習事前事後指導受講生全員を対象に実習指導室にて指導案の添削指導を行っている。これは、以後実習指導室を身近なものとして気軽に相談できるための、一つのきっかけになっていると思われる。

幼稚園実習担当教員の担当回数1回あたりの学生相談件数は、全体平均、平成17年度5.15件、平成18年度5.9件、平成19年度6.96件、平成20年度7.38件となり、こちらも年々増加している。

ただ、学生相談は、実習開始時期等の理由から、一時期に集中することが多く、時期によっては、大変混雑している状況である。

幼稚園実習担当の相談学生は、幼稚園教育実習が行われる4回生がほぼ100%である。各年度の4回生の幼稚園教育実習参加人数は、平成17年度は127名、平成18年度は147名、平成19年度

は142名、平成20年度は132名である。これを合計相談件数と比べてみると、一人の学生が一度に留まらず、何度か実習指導室に相談しているという確率が高いことが考えられる。

また幼稚園実習各年度の実施時期は、平成17年度は5月から1月、平成18年度は5月から9月、平成18・19年度は9月である。

実習相談メールによる相談受信件数は、以下のとおりである。

表5

年度	受信件数
平成17年度	47
平成18年度	157
平成19年度	58
平成20年度	92

実習相談メールは、基本的に学生の実習中に対応しているものである。平成17・18年度においては、実習時期がまちまちであったため、学生ひとりひとりの実習期間は、一か月であるが、全体的にはほぼ半年間程度対応している状況であった。平成19・20年度においては、実習時期が全員同時期であったため、期間はほぼ1か月程度である。

件数をみると、各年度ばらつきがある状態だが、学生がこのメール相談を活用していることが理解できる。

(2) 学生相談内容（全体）

表6

相談内容内訳	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
実習	384	73	294	62	341	52	320	48
就職	139	26	166	35	233	36	290	43
ボランティア	2	1			61	9	25	4
保育講座			7	1				
子育てカレッジ					16	2	13	2
ミュージカル					3	1	14	2
附属幼稚園遠足							10	1
卒論			5	1				
学生相談件数合計	525		472		654		672	

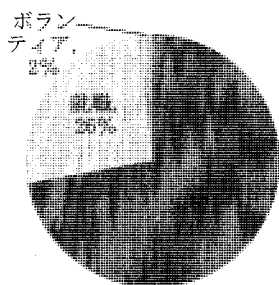


図1 平成17年度 学生相談内容内訳

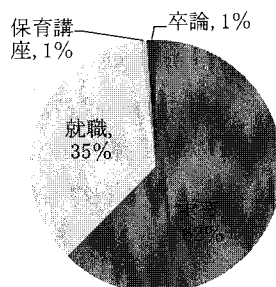


図2 平成18年度 学生相談内容内訳

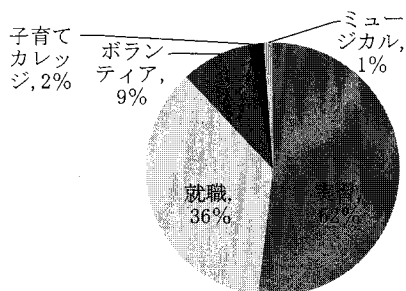


図3 平成19年度 学生相談内容内訳

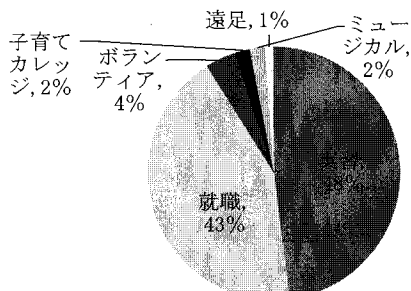


図4 平成20年度 学生相談内容内訳

学生相談内容は、おおむね「実習」「就職」についての相談が多い。平成17・18年度は、相談内容の殆んどが実習に関するものであった（図1・図2）。しかし、平成19年度から就職に関する相談が増え始め（図3）平成20年度には、実習48%に対して、就職43%と相談割合が拮抗し始めて

いる状況（図4）であり、学生の就職に対する意識の高さがうかがえる。

また、近年学生のボランティアに対する意識の高まりから、これに関する質問や相談が多くなってきている。

(3) 学生相談内容（月別）

表7

月	平成17年度			平成18年度			平成19年度			平成20年度		
	実習	就職	その他	実習	就職	その他	実習	就職	その他	実習	就職	その他
4月	38	2	1	35	6	2	6	6	7	2	3	4
5月	83	2		119	1	5	28	10	8	30	16	22
6月	113			54	19		49	12	5	38	14	9
7月	49	2		29	5		87	18	38	131	22	17
8月							49	9	7			
9月	4			2	3					8	3	
10月	51	40		38	51		42	73	6	64	109	
11月	19	45		4	37		52	45	2	37	72	10
12月	14	32		10	24		17	30		9	30	
1月	10	12	1	3	20	5	10	23	5	1	21	
2月	3	4					1	7	2			
合計	384	139	2	294	166	12	341	233	80	320	290	62

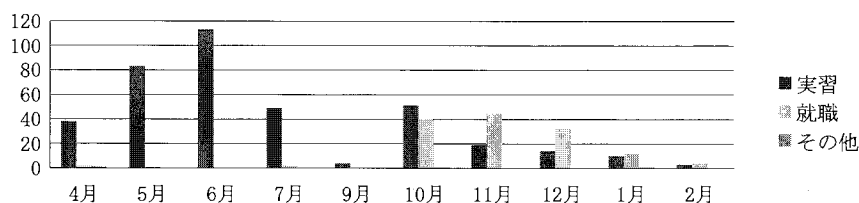


図5 平成17年度 相談内容（月別）

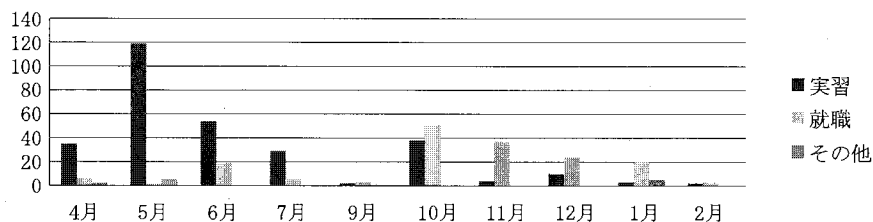


図6 平成18年度 相談内容（月別）

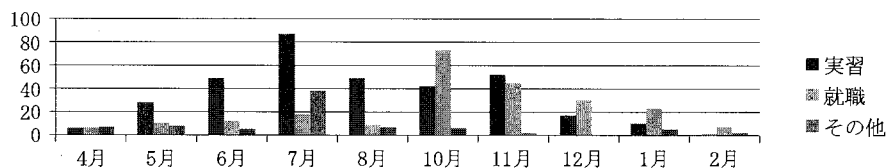


図7 平成19年度 相談内容（月別）

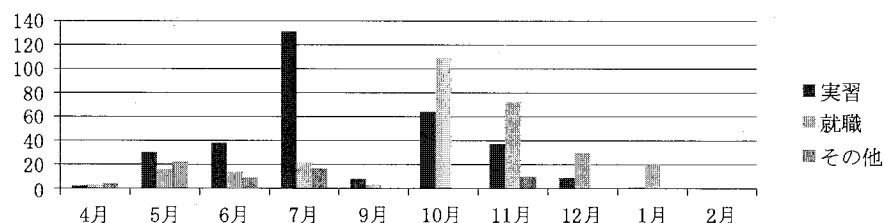


図8 平成20年度 相談内容（月別）

学生の相談内容を月別にみると、実習についての相談件数の多い月は、平成17・18年度は、4・5・6月で（図5・図6）これは、幼稚園教育実習がおおむね前期5月・6月、後期9月に行われていたためと考えられる。平成19・20年度は、6・7・8月の相談件数が多かった（図7・図8）。これも、幼稚園教育実習が現在と同時期の9月に行われていたためと考えられる。各年度、実習時期に合わせて実習に関する相談内容が増加している状況が理解できる。同時に、学生が実習を控え、みずから実習指導室を訪れ、積極的に準備に取り

組んでいる様子がうかがえる。

実習終了後10月以降の実習についての相談は、実習園からの実習評価の開示が多い。これは、実習の振り返りとして大切な内容であり、4回生にとっては、就職にむけての一つの指標となると考えられ、今後の取り組みにむけて言葉を添えて指導している。

就職についての相談件数は、実習が終了する10月以降、実習相談に逆転して増加し、年々件数も増加している。就職活動は、例年11月頃までがピークで、相談件数も多いが、12月頃から

相談件数は、少しずつ減少し始め、2月の件数は少ない状況である。

(4) 学生相談内容（詳細）

ここでは、実習指導室への学生の相談内容で大半を占めた「実習」と「就職」に関して、各々おもな学生の質問・相談内容の詳細を分析する。

【「実習」について】

実習については、先述の ① 事務的な指導 ② 基本的な生活態度の指導 ③ メンタル面の指導 ④ 実技面での専門的な指導の各分野に分けて分析を行なう。

各分野の具体的な相談内容としては、

① 事務的な指導

- ・実習日程について
- ・実習延期・実習取り消しについて
- ・自己紹介書の添削
- ・麻疹予防接種について

② 基本的な生活態度の指導

- ・オリエンテーションにむけて
- ・服装・持ち物等について
- ・お礼状の書き方

③ メンタル面の指導

- ・実習にむけての心がまえ
- ・実習を終えた感想と次回への心がまえ

④ 実技面での専門的な指導

- ・幼稚園生活の説明
- ・観察日誌の書き方
- ・保育教材の提示と貸出し
- ・責任実習の選択の仕方
- ・指導案の立て方
- ・指導方法の提示
- ・実習評価の開示

等である。

表8 実習についておもな相談内容（詳細）

詳細	17年度	18年度	19年度	20年度
①事務的な指導	6	8	12	19
	(2%)	(3%)	(4%)	(6%)
②基本的な生活態度の指導	8	2	6	8
	(2%)	(1%)	(2%)	(3%)
③メンタル面の指導	65	74	25	22
	(17%)	(25%)	(7%)	(7%)
④実技面での専門的な指導	305	210	298	271
	(79%)	(71%)	(87%)	(85%)
相談件数合計(実習)	384	294	341	320

① 事務的な指導においては、自己紹介書の添削等、学生に手続き上の間違いが無いよう実習指導室としても配慮してきた。しかし少しずつ件数が増加している状況である。これは、麻疹の予防接種など実習にむけての新たな事務手続きが増えたことが一因として考えられる。

② 基本的な生活態度の指導においては、相談件数が比較的少ない。これは、幼稚園教育実習が4回生で行われることに依ると考えられる。学生は、2・3回生において保育実習・施設実習を経験しており、服装や身だしなみ、言葉使いや持ち物等基本的な習慣や態度については、すでにある程度習得できていると考えられ、本人もそのような認識しているからであると思われる。

③ メンタル面の指導においては、特に平成17・18年度において65件(17%)・74件(25%)と多くの相談があった。これは、実習時期が前期と後期に分かれていた学生が多く、前期の実習の反省や感想を相談することによって、後期の実習へ役立てていきたいと考えていたからであると思われる。ただ、学生の相談内容は、しばしば実習について良かったこと、逆に嫌だったこと等感想を

話すだけになってしまいがちであったので、次の実習にむけての取り組みについて改めて指導することを心がけた。

毎年深刻なものは少ないが、実習にむけて不安や心配を抱える学生の相談もみられる。理由は、以前の実習での経験からであったり、自身の様々な事由であったり、未知の幼稚園実習に対する不安感からであったりと様々であるが、本人の話をしっかり傾聴し、できるだけゆったりと時間を取って経験者としてひとつひとつその疑問に丁寧に答えていくことが大切であり、実習指導室の役割の一つであると考ええる。

④ 実技面での専門的な指導においては、やはり例年相談件数が多く、平成 17～20 年度にかけて、実習における年間相談件数の 79%・71%・87%・85%といずれも高い確率を示している（表 8）。具体的には、指導案の作成や保育教材の提示や指導方法に関する相談が多く、これらの指導に対して多くの時間を費やしている状況である。

例えば、保育教材については、個人の实習内容の希望を聞きながら、参考書・絵本・紙芝居・楽譜等の貸出しを実施し、同時にひとりひとりに合わせて指導方法を実践指導している。指導案の指導においては、学生全員が作成した指導案をすべて添削し、個別指導で学生の疑問・質問にも答えながら返却することを心がけている。このように、学生ひとりひとりに個別に対応し、ひとりひとりに応じた指導ができることも、実習指導室の役割の一つであると考ええる。

また近年自身が保育園に通園していた学生も多く、幼稚園での生活や基本的な保育の流れについての質問が多くなってきている状況である。これら学生の経験不足を補えるよう、丁寧なきめ細かい指導も必要となってきている。

しかし、なによりこれだけ多くの学生が実習にむけて、強制されるではなく、自主的に相談に訪れることは、特筆すべきことであると考ええる。そしてこの学生の取り組みに実習指導室として答え

ていくことが大きな役割であると考ええる。

以上実習についてのおもな相談内容を ①②③④ の 4 分野でみてきたが、これらは幼稚園実習において全て関連するものであり、学生の相談においても、違う分野の質問が重複している場合も多い。

【「就職」について】

就職については、① 就職にむけての指導 ② 就職試験の指導 ③ 就職後の指導 の各分野に分けて分析を行なう。

各分野の具体的な相談内容としては、

① 就職にむけての指導

- ・就職までの流れや計画
- ・就職にむけての取り組み方
- ・求人園の状況（保育内容・樟蔭出身者の有無等）
- ・自己開拓について
- ・公立幼稚園・私立幼稚園の違い
- ・近年の就職状況
- ・ピアノについて（試験内容やレベル等）

② 就職試験の指導

- ・履歴書の書き方と添削
- ・例年の試験内容の把握
- ・保育実技試験について
（課題曲の選択・ピアノ初見・絵本や紙芝居の読み方・設定保育実技・指導案の書き方等）
- ・面接試験について
- ・試験にむけての心がまえ

③ 就職後の指導

- ・内定のお礼状の書き方と添削
- ・研修について
- ・不合格の学生に対するケア
- ・就職にむけてのアドバイス 等である。

表9 就職についておもな相談内容（詳細）

詳細	17年度	18年度	19年度	20年度
①就職にむけての指導	35	12	80	71
	(25%)	(7%)	(34%)	(24%)
②就職試験の指導	67	107	100	176
	(48%)	(64%)	(43%)	(61%)
③就職後の指導	37	47	53	43
	(27%)	(28%)	(23%)	(15%)
相談件数合計（就職）	139	166	233	290

① 就職にむけての指導においては、平成17年度に比べると平成19・20年度にかけて、倍以上の相談件数となり、学生の就職にむけての意識の高さがうかがえる。4年生春学期の早い時期から、就職にむけて今何をすべきか等質問に訪れる学生も増えている状況である。なかでも公立幼稚園か私立幼稚園か、地元か下宿か等自分の進路や就職にむけて迷っている学生の相談が多い。迷っている内容は個々に違い、状況も様々であるので、客観的データとともに、学生本人の意思を聞き、確認しながら、個々を尊重したきめ細かい対応が必要となってくる。

また、就職にむけての一般的な流れや取り組みについての質問も多い。そのため平成21年度、児童学科・キャリアセンターによる「就職ハンドブック」を作成し、学生に配布している。就職までの流れや試験にむけての取り組みや就職後の対応等、就職に関する様々な事柄について解説するとともに、このような学生の疑問に答えられるよう対応している。

② 就職試験の指導においては、こちらも平成17年度に比べると3倍近くの相談件数となっている。就職試験のピークをむかえる10・11月には、大変混雑している状況である。

近年幼稚園就職試験は、色々な試験内容を取り

入れており、暗記だけではなく、学生のような力をみるような試験内容が多くなっている傾向である。このため、学生の相談件数も増え、多岐にわたった指導が必要となってきた状況である。

③ 就職後の指導においては、おもに研修についての質問、就職内定後のアドバイスが多い。研修への取り組み方、就職にむけての心がまえ、就職園での人間関係の構築、就職1年目の取り組み等があり、幼稚園教諭の先輩としてのアドバイスを是非今後に生かしてもらいたいと痛感している。このように、元幼稚園教諭としての専門性を活かして、様々な質問に対応できるところが、実習指導室の役割の一つであると考ええる。

3. まとめ

実習指導室開設以来、4年間の幼稚園実習担当活動報告を通して、実習指導室の利用状況の高さ、学生のニーズの高さを確認すると同時に、実習指導室の役割について考察してきた。

若年層の指示待ち傾向がいわれる昨今、多くの学生が心の底から学びたいと思い、自主的に実習指導室を訪れている状況を見ると、実習指導室の存在価値は重要である。学生は、まず疑問や質問を持つことにより学び、成長していく。この成長を援助し、伸ばすことができるよう、実習指導室は学生の疑問にひとつひとつ答えていくことが、学生の意欲をより高める結果につながると思われる。このことから実習指導室の役割は大きいと考える。

実習指導室は、各々実践の場で働いてきた経験を持つ教員で構成されており、その専門性を活かした指導と、学生ひとりひとりに応じた個別指導が特性であると考ええる。学生個々の状況も、社会の状況も多様化するなかで、大人数・短時間ではなかなか解決できない様々な問題に、きめ細かく丁寧にゆっくりと時間をかけて対応していくことが、実習指導室としての役割であるということが、

活動報告・考察を通して検証できたと考える。

今後の課題として、まず実習指導室を訪れるということは、基本的に学生の自主的な活動となっているため、何度も足を運ぶ学生と、殆ど訪れたことがない学生があり、来訪学生にかたよりがみられる状況が上げられる。できれば一人でも多くの学生が実習指導室を訪れるよう更に学生に対する働きかけを考え、実習指導室をあまり活用できていない学生への啓発としていきたい。

また、よく実習指導室を訪れる学生のなかには、聞かないと不安、自分では考えられない等、やや依存性の高い学生がみられる。学生個々の成長の様子をみて対応することは勿論、実習指導室は個別対応が基本であるが、これに留まらず、内容によってはあえて数名で相談を受けて、学生間で刺激、勉強になるような場を設定していくことも大切ではないかと思われる。

また、実習時期が全員同時期に行われる等のために、学生の相談が一時期に集中し、実習指導室が大変混雑している状況があげられる。学生は相談のために、長時間待つことになる場合も少なくない。このような事態を少しでも改善できるよう、学生の相談内容の分析を進め、例年の質問件数の多いものについては資料を作成し、提示する等して、内容によっては時間短縮を図るよう配慮していきたい。

「実習」指導室とはいえ、近年相談内容は実習のみに留まらない状況であることが検証できた。すべての相談に対応することは、難しいと思われるが、関連機関と連絡を取りながら、学生の様々な疑問に答えていくことも、実習指導室としての役割となってきた。

これらのことを踏まえ、実習指導室の一員として、今後も学生にとって実習指導室がより身近で、学習意欲を高める上でなくてはならない存在となるよう、学生の相談に真摯に向き合っていきたいと痛感している。

引用・参考文献

- (1) 小川博久・岡 健編 2002 幼稚園教育実習ノート充実した教育実習を体験しよう 協同出版 49-51

秋山和夫・成田錠一・山本多喜司監修 秋山和夫編著 1996 教育実習 北大路書房 27-30

玉井美智子監修 田中正浩・浅見均編著 2002 免許取得に対応した幼稚園教育実習 学事出版 40-45

秋田喜代美編集代表 西山薫・菱田隆昭編集 2007 今に生きる保育者論 (株)みらい 166-170

An examination on functions of Practical Training Room

— The report on the activity of The Practical Training Room
and training for kindergarten workers —

Osaka Shoin Women's University
Naomi ABE

ABSTRACT

At universities which train preschool teachers, student teachers are required for a wide range of preparations for practical training; however, it is very difficult to cover them all within the prescribed time before and after practice teaching in our current situation. Therefore, we established a new program, called "Practical Training Room (PTR)," in 2005, which aimed to support students by giving advice and providing suggestions. In the same year, mentor support on practical training via email was set up in order to respond to students' concerns and questions during the training. This report will be examining the activity of training kindergarten workers at PTR for four years. Counseling cases, contents, and a comparison with every year will not only be analyzed in order to understand the current situation, but also functions on PTR and tasks ahead will be examined.

Keywords: Practical Training Room, practice teaching at kindergarten, before-and-after practice teaching, mentor support on practical training, tutorial training